

敬老乗車証制度崩壊の一步を踏み出すことに

高齢者の通院・福祉施設の利用・買い物・ボランティア活動も行くのに制限しなくちゃならないし、介護や病気の予防に良い制度だって聞いてたのに、気軽に利用できなくなるなんて！地域格差も広がり、これでは高齢者の引きこもり促進策になっちゃうのでは？！

**敬老乗車証制度見直し実施の場合
「第二種乗車証」廃止
上限12万円、一割負担**

利用者大幅減

**バス路線縮小
“市街地格差拡大”**

悪夢

利用者 不満と混乱



**2015年地下鉄東西線開業
カードのIC化に伴う
敬老乗車証の更なる見直し**

**利用者負担増
更なる利用者減**

**一部の高齢者のみの制度に…
大幅な利用者減により
後々には廃止ということも？！**



世論と運動の力で見直し案の撤回を



奥山市長は初登庁日当日(2009.8/24)、インフルエンザが話題となる中、急患センターを視察訪問するパフォーマンスでデビューしたけれど…一年経ってやっていることは市民に背を向けた酷いことばかり！敬老乗車証制度見直しでは当事者に重い負担と利用制限を強いる政策変更を押しつけておいて、一箇所の説明会にも来やしない！まったく人間味っていうものもないね！

～理念なき政治の暴走／仙台市長就任1年～

「うさぎの耳」と称する奥山仙台市長の『非現場主義』

公立保育所民営化“多くの子どもの心を傷つけた年度途中移管”

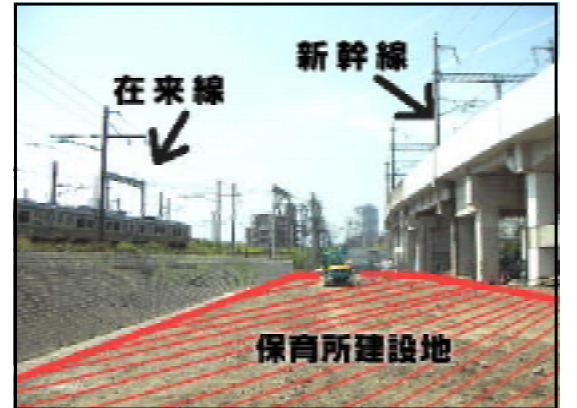
仙台市は市民の多くの反対や不安の声に耳を傾けることなく、しかも非公開で事業者を選定するなど秘密裏に仙台市の方針を市民に押し付け、昨年10月には全国初となる年度途中の民間移管を行い、保育現場は混乱し、子どもも親も大きく影響を受けました。“保育所に行くのを嫌がるようになった子ども、食事もほとんどできなくなった子ども、急にママに会いたくなったと涙を流す子ども”…民営化の陰で心に傷を負った子どもたちの事例の一部



何でもありの待機児童解消“線路に挟まれた保育所”

子供未来局長「いろんな保育所があつていい」(健康福祉委員会発言)

仙台市は市内のJR沿線の公有地を社会福祉法人に貸し、認可保育所として来年4月の開所を目指すとの報道。整地された建設予定地は「隣に在来線、上に新幹線」まさしく“線路にはさまれた保育所”で、3分毎に列車・新幹線が通り過ぎる場所。園庭でお遊びできてもこの騒音では子どもの発育にどう影響するのか？仙台市の理念なき待機児童対策の暴走を象徴した現場です。



アンパンマンミュージアム建設問題

市民の声を無視し“一部の入”と『支え合う街づくり』

ここでも地元の街づくり団体関係者や近隣マンション住民の切実な居住環境問題を訴える声に耳を傾けず、住民説明会にも顔を出さず。



地鎮祭後の定例記者会見で近隣住民の理解について聞かれ、「(空地に) 駐車場が建つという事で、なかなか受け入れるお気持ちにはなっていないのではないかと考えています。」まったくの他人事発言。

そして、梅原前市長でさえ、着手できなかった敬老乗車証制度の見直し案を強行提案

“財政難”といっている仙台市ではこんなことが…

★海外視察先でビール&ブランド買い！杜の都の議員たちは…

全国の議会で、あたり前のように行われていた議員の海外視察。仙台市議会議員が訪れたヨーロッパ100万円の視察旅行。一体、何が行われているのか！一行を追跡すると！視察予定にはない、超高級ブランドショップ訪問・オープンテラスでの昼間からの飲酒…。また、議員に与えられる手当ての使い道を調べてみると…。議員たちは、どのような考えで何を得ているのか！(TBS報道特集HPより)

★仙台市 時給換算177万円も 行政委員 欠勤でも定額 2月25日 河北新報

自治体の非常勤行政委員への月額報酬が高すぎると指摘されている問題で、仙台市の行政委員に2006、07年度に支払われた報酬が、時給換算で最高約177万円に上っていることが24日、仙台市民オンブズマンの集計で分かりました。(河北新報HPより) [テレビ朝日スーパーモーニングでも取り上げられました。]